

原発津波 本当の大きさは

東京電力の福島第一原発の事故原因となった大津波。19日、津波の新しい写真が公開された。東電は津波の高さを「想定外」の14〜15メートルとするが、周辺地域に比べ突出しており、専門家から疑問の声もある。「想定外」は損害賠償にも関わるだけに詳細な検証が必要だ。

▼1面参照

東電公開の写真から

津波は高さ10メートルの防波堤

を乗り越え、海面から高さ約15メートルまで水流が押し寄せ、防波堤を乗り越えた津波は、標高4メートルの地盤にある貯水タンクや重油タンクの周囲が浸水。貯水タンクの



下部はねじられたようにしてへこみ、重油タンクは流され位置が変わった。1〜4号機の原子炉建屋

建物の壁 浸水の跡

東電「14〜15メートル裏付け」

東電は津波後、建物の壁の高さを確認した。さらなる調査。1〜4号機の海側の壁などで地上から4〜5メートルの高さまで水につか



東電が公表した津波の写真。集中廃棄物処理施設付近では、海面から15メートルから5メートルの高さまで水につか

「情報整理し 写真を発見」 東電
震災から2カ月以上もたつて写真を公表した理由に

「5メートル」に水が迫り、1分後に見えなくなった。さらに1分後に水が引くと、乗用車が壁に直立していた。東電は、津波の巨大さを理由に損害補償の負担軽減を求めた経緯がある。4月25日、損害賠償の目安をつくる原子力損害賠償紛争審査会に提出した要望書には、「津波が14〜15メートルまで達する巨大なものであったことを踏まれば、『異常に巨大な天災地変』に当たるとの解釈も十分可能」と記載。法が定める免責事由にもあてはまるとの考えだ。

防波堤わずかに超える？

専門家「10メートル程度では」

海岸に押し寄せた津波の高さについては、東電の見解と異なる見方もある。写真を見た東北大学の今村文彦教授は「海岸の津波の高さは10メートル程度では」と話



務局長の細野豪志首相補佐官も「写真ははじめてみただけで、情報提供を呼びかけたから出てきた」ということで、得られる情報はすべて公開する」と話した。

津波は強い水流となつて陸を駆け上がる性質がある。想定5.7メートルはあくまで海岸での高さ。海岸付近にある検潮計でも正確なデータは得られておらず、想定をどれだけ超えたかはまだ明らかになっていない。北海道大の谷岡勇市郎教授はタンクの水没の様子から「海面の津波の高さも10メートル程度ではないか」と、東電の見積もり通りではないかとみる。

ただ、津波の高さが10メートル程度を超えたことには変わりはない。想定に対して施設の高さは余裕を持って作っており、多少超えただけでは問題は起きないはずだ。何れにせよ、電源喪失などの事故を回避できたのかも明らかにはなっていない。海岸での高さを正確に割り出すには詳しい現地調査が必要になる。ただ、研究者の現地入りは難しい。（佐々木英輔、瀬川茂子、長野野）